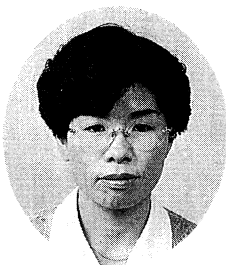


保健委員会の

指導を通して

羽染 たけよ



——今年の保健委員会の活動はすごく良かったと思う。

みんなのためになるものが多くあって、みんなが見てくれたのが嬉しかった。私自身も、着色剤とかそういうものが入った食品が、体に悪いということを知った。

紙芝居の発表はすごく緊張したけど、どうにかできた。保育所を訪問したり、いろいろな活動をしていることを、みんなにわかってもらえたと思う。

来年も、もっともつといいものをやりたい。

これは昨年の文化祭で、保健委員会が発表・展示をした時の生徒の感想である。

保健への興味・関心を持たせ、委員会活動を活発にさせる。そのためここ数年、科学的な実験活動や実

態調査などを試み、結果を発表させるようにしている。

「たばこは体に悪い」と知識で理解していても、実感はしていない。実際に調べて初めて本当の怖さを実感する。『百聞は一見に如かず』である。自分の目で見、体験させた上で納得させる。このような活動は、生徒の活動意欲を高め、連帯感を強くするものと思っている。

私自身も学び気づくことが多く、また、生徒の新たな一面を発見したり、悩みを聞いたり、触れ合いを深める場にもなっている。

いろいろな生徒がいて、いろいろな活動を希望する。すべての希望を満たすことは難しいが、一人でも多くの生徒に満足感を与えたい。それ



▲展示——たばこは体に悪い

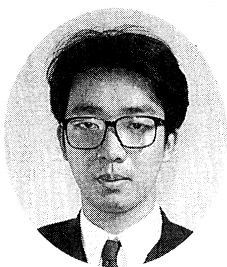
が全校生の健康への関心を高めることにつながればと願っている。

今、保健委員会では「地球にやさしく」のテーマのもと、廃油からの『オレンジ石けん』作りに励んでいる。文化祭で全校生に配付することを楽しみに、真剣に取りくんている生徒たちの表情はとても明るい。

(南郷村立南郷中学校養護教諭)

古典指導を通して

佐々木 義史



唐衣きつつなれにしつましあれば
はるばるきぬる旅をしぞ思ふ

伊勢物語「東下り」の一節に出てくる和歌である。都に残してきた妻がいるので遙々やって来た旅が、物悲しく思われることだ」と、詠んでいる。また、「つまは、着物の「褌」と「妻」を、「はる」は、「衣を張る」

の意と「遙々遠い」の意と掛けた修

辞技法である。

「褌」と「張る」という言葉、どう教えるのか、私は本当に困った。着物を着たのは、子供のころ七五三の祝いと、叔母たちの結婚式の時、そしてお盆に、父とお揃いの浴衣を着た覚えがある位である。だから「褌」とは、(着物の襟下から裾までのへり全部をいう)と言葉の上では分かっていても、生活の中での経験とは縁遠いものである。

「よく晴れた日に、庭に張り板を出して、母が洗い張りをしていたなあ。乾いた布を、張り板から剝がす時が難しいのだよ。おもいつきり引つ張ると、布が破けてしまうからなあ。」

先輩の先生が、少年時代の体験を語ってくれたが、私には想像がつかない。実物が見られるといいのだが、と思いながら、祖母のことを思い出した。

「蔵の中にあるはずだよ。」

祖母は、さっそく探してきてくれた。それから手ぬぐいで、実際に張り方をやってくれたのである。幅三十五センチ、長さ約二メートルの張り板の上で、糊づけされた木綿の手ぬぐいが、秋の陽に乾いていく光景にやっと「張る」の言葉の意味が実像となったのである。

しかし、私自身がやっと実感できたことが、生徒たちに伝わった